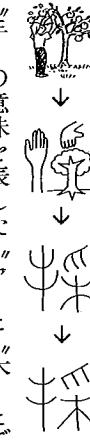


# 採

五年  
画数 11  
筆順 手 捂 捂 捂 捂  
ワシ ワシ ワシ ワシ ワシ  
とる

成り立ち



## 採

手の意味を表した「采」と「木」とで、「木の実を取る」という意味を表した「采」と「オ」を組み合わせた字です。

すでに「采」が、「物を取る」意味の字ですが、菜や彩などの字とはつきり区別がつくように、「オ」を加えたものです。燃(年795)や暮(年992)などと同じ仕組みです。

「取る」と同じく「とる」と読みますが、「採」は「つみどる」「選びとる」「とりいれる」というばあいに使われています。

# 際

五年  
画数 14  
筆順 画数  
ワシ オン サイ  
クン キハ  
隣 隣 隣 隣 隣 隣 隣

成り立ち



人が神と「交わる」のは「お祭」の時だけです。

「交わる」意味の「祭」と、崖の意味の「阤」とを組み合わせて作った字です。

「崖と崖とが交わる所」つまり「さかいめ」を表した字です。**例水際**。

「さかい」は「果て」ですから、「果て」という意味にも使います。**例際限**。

「さかいめの時」ということから「ちょうどその時」という意味にも使います。

また、「交わる」という意味にも使います。**例交際**、国際。

△ 池の水際に、かえるが何びきも、ぴょんぴょんとんとんしていました。  
△ ぼくのクラスには、絵が際立つて上手な人がいます。

△ 勝ちはしましたが、それは実に際どい勝ちでした。

△ 水際(水と陸と交わる所。また、水に一番近い所という意味。また、陸地の果て)

△ 隣立つ(さかいがはつきりしているという意味で、「目立つ」こと。)

△ 隣どい(どちらに属するか、さかいがはつきりしない意味で、「どちらとも言いがたい」こと。)

△ 隣限(際も限も、「果て」、「限り」。きり。**例際限**もなく使っていたら、たちまち尽きてしまう。)

△ 交際(人と人との「交わり」、「つきあい」。**例**あの人とは長い交際があつて、何から何までよく知り合つた仲です。)

△ 国際(国と国との交わり。**例**現代ほど国際関係が大切な時代はありません。)

△ 山へきのこ採りに行きましたが、少し採れただけで落ちていた栗を拾って帰りました。

△ わたしはきのう病院で血を採られました。健康診断のための採血だそうです。

△ 採取(採も取も「とる」こと。**例**女の人人が水にもぐつていますが、真珠を採取するためです。)

△ 採集(採り集めること。**例**昆虫採集に行き、かぶと虫を採つて来ました。)

△ 採択(採は選択の択で「選ぶ」こと。いくつかの中から「選び採る」こと。**例**長一短があつて教科書の採択はむずかしい。)

△ 採用(採つて用いること。良い人や良い意見を選び採つて、それを用いることを言います。)

△ 採血(血液を採ること。)

△ 採光(光りを取り入れること。光採り。部屋の中に光を採り入れること。)

△ 採決(会議で、議案の賛否を採つて決める事。**例**採決の結果、原案通り実施することに決まりました。)